ミューズ No. 42 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行: 2019年12月

編集:安斎育郎、山根和代

イラスト:戸崎恵理子、Pegge Patten

事務局:戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所:〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

第10回国際平和博物館会議について

安斎育郎 (INMP ジェネラル・コーディネータ)

世界にはたくさんの平和博物館があり、「平和のための博物館国際ネットワーク」(INMP) はそれらの連携の発展に取り組むネットワークです。1992 年に結成されて以来、ほぼ3年に1度の割合で「国際平和博物館会議」を各国回り持ちで開催してきました。日本でも1998年と2008年に開催されましたが、記念すべき第10回国際平和博物館会議が2020年9月に日本で開催されます。市民ネットの全国集会では、その概要を以下のように報告しました。日本の平和博物館関係者が積極的に参加し、日ごろの活動を報告し、世界の平和博物館関係者と交流することを切に期待します。

(1) 第 10 回国際平和博物館会議を「平和のための博物館国際ネットワーク」(International Network of Museums for Peace, INMP)主催、広島市、立命館大学、京都造形芸術大学、京都精華大学、池坊短期大学の共催で開催する。現在、日本平和博物館会議、京都

ユネスコ協会、京都藝際交流協会、平和のための博物 館市民ネットワークの協賛が決まっています。

(2) 第 10 回国際平和博物館会議のメインテーマは、 "The Role of Museums for Peace in Conveying Memories for the Generations to Come" (次世代への 記憶の継承と平和のための博物館の役割)とし、2019年 11 月より参加登録、口頭およびポスター発表申し込みおよびパネル討論会やワークショップの提案 (2020年4月30日締め切り)、宿泊予約の受付(2020年8月20日締め切り)を INMP のウエブサイトまた はフェイスブック上で開始している。



erico

宿泊予約は JTB のアマリス・システムで行うことが 出来る。(ウエブサイトやフェイスブックからもアマ リスに入ることが可能)

ウエブサイト: https://sites.google.com/view/inmp-museums-for-peace

フェイスブック:

<u>https://www.facebook.com/museumsforpeace/</u> アマリス・システム: <u>https://amarys-</u>

jtb.jp/inmpkyoto/

(3) 第10回国際平和博物館会議の開催時期:

2020年9月16日(水)~20日(日) 開催場所と予定されている内容は、以下の通り。

- ●9月16日(立命館大学) 開会式、基調報告、パネル 討論、文化行事、シンポジウム
- ●9月17日(立命館大学)会員からの口頭・ポスター発表、シンポジウム、パネル討論会、ワークショップ、アート・パフォーマンスなど
- ●9月18日 (京都国際マンガミュージアム) 「へーわ ボケ漫画展」の参観と意見交換会
- ●9月19日(立命館大学)2日目と同様+京都大会閉 会行事
- ●9月20日(広島平和記念資料館)京都→広島への移動、原爆ドーム、平和記念公園、市歓迎行事、平和記念資料館見学、被爆者講話、意見交換、フェアウエル・パーティ
- (4) 会議の準備と実行に当たる組織委員会の委員長は吾郷眞一立命館大学国際平和ミュージアム館長、同事務局長は安斎育郎が担当する。会議の財政は、基本的に、参加登録費、共催者が担当する企画についての負担、補助金、寄付金より成る。全日程通し参加登録料は35,000円(2020年5月1日からは38,000円)だが、1日参加券(会議のみ参加:3,000円、会議+夕食会:7,000円)もある。アマリス・システムで登録時に選択できる。

第 18 回平和博物館・市民ネットワーク 全国交流会報告

市民ネットワーク事務局 宮原大輔

第 18 回平和博物館・市民ネットワーク全国交流会は 2019 年 10 月 26 日、27 日の二日間にわたって埼玉

県嵐山町の国立女性教育会館で開催されました。同県 川越市の中帰連平和記念館のみなさんに地元開催を 引き受けていただき、充実した2日間の交流となりま した。

交流会参加者は 46 人で、うち中帰連平和記念館関係者は 13 人でした。各館の報告では一人の持ち時間を 25 分として、1 日目は 11 人、2 日目は 3 人の方々から報告があり、質疑応答がなされました。

各博物館でこの1年間に行われた展示会や、活動の 取り組みが報告されました。

戦争体験の語り継ぎでは、体験者が高齢化し、語り 手が少なくなっていることがいくつかの館から報告 されました。

民間で運営している博物館では、ボランティアが大きな役割を担っていること、またそのために、ボランティアの方々が活動しやすいように工夫し心を配っておられることが報告されました。

愛知で開催されたトリエンナーレにおける「表現の 不自由展」の中止と行政の介入について、報告があり 討論されました。

来年 9 月の第 10 回国際平和博物館会議に向けての 報告がありました。

原爆の図丸木美術館からは「原爆の図」を編みなお したアーサー・ビナードさんの新作紙芝居『ちっちゃ いこえ』が紹介され、理事長さんに実演していただき ました。

懇親会は施設内の食堂で開催され、交流が深められました。

2 日目の記念講演は元NHKのプロデューサーで現在は武蔵大学教授の永田浩三さんが、戦争と平和をどう伝えるかと題して講演いただきました。

フィールドワークでは丸木美術館と中帰連平和記念館を訪ねました。館内で岡村学芸員によるギャラリートークを聴かせていただきました。その後中帰連平和記念館を訪ね、「赦された戦犯たちの歴史」の資料を保管、展示されている様子を見学し、交流しました。フィールドワークの移動には、マイクロバスが用意され、運転手は中帰連の芹沢昇雄さんでした。

今回の交流会では、会議資料の作成や受付、宿泊の お世話などを中帰連平和記念館の多くの方々が準備 され、おかげで交流会が首尾よく開催されました。

交流会では安斎育郎さん (INMP 代表) から第 10 回 国際平和博物館会議について、ネットワーク交流会と して協賛するという提案があり、交流会として協賛することを確認しました。

これと関連して、来年のネットワーク交流会について、国際平和博物館会議への参加と別に交流会を持つことは難しいことから、国際平和博物館会議への参加をもって交流会とすることになりました。国際平和博物館会議(2020年9月16日-20日、京都・広島)のプログラムの中の、国際マンガミュージアムを会場として開催される「へーわボケ漫画展」(9月18日)に参加し、夕刻、交流会(懇親会)をもつこととなりました。

2021 年の交流会については、満蒙開拓平和記念館 (長野県下伊那郡阿智村)に引き受けていただくよう 要請しました。

交流会の最後に「表現の不自由展」に対する行政の 介入と市民の脅迫的言辞に関する声明を参加者一同 で確認しました。

交流会参加費は昨年の交流会での確認に基づき、今回から 1,000 円としました(昨年までは 500 円)。値上げの 500 円(×参加者数)については、Muse の翻訳活動に使われます。

今回の交流会ではすべての会計を中帰連さんにやっていただきました。若干の赤字について、中帰連で 負担して構わないとの申し出がありましたが、事務局 会計から約半分の1万円を支出しました。

事務局についてはこれまで9年間、宮原(ピースあいち)が担当してきましたが、昨年から館長を務めていて、事務局を続けることが困難なため、交替を申し出ていましたが、引き受けていただく方がいないので、来年以降の事務局は持ち回りで開催することになりました。今後は、日常的には会員や運営委員のメーリングリストで交流していきます。

*なお「平和のための博物館・市民ネットワークに参加して」という感想をピースあいちメルマガに丸山豊さんが掲載されました。

http://www.peace-

aichi.com/piace aichi/201911/vol 120-11.pdf

山梨平和ミュージアム 理事長 浅川 保

3.1 独立運動 100 年、日韓関係を考える

山梨平和ミュージアムでは、常設展の他に、歴史を振り返り、現代の課題を追求することを主旨に、半年ごとに企画展を行っています。今年は6月から、「3.1独立運動100年、日韓関係を考える」を行っています(12月まで)。

10月の全国交流会では、その概要をいくつかの展示パネル (3.1 独立運動の展開、真に朝鮮と向き合った日本人―石橋湛山・柳宗悦、徴用工問題を考える) の紹介とマスメディアへの対応を中心にお話しました。マスメディアの国民世論に与える大きな影響を考える時、メディアをどう位置付け、どう働きかけるかは、今後ますます重要になるかと思います。企画展を報じた朝日新聞山梨版も添付しました。ご参考になれば幸いです。



中帰連記念館の近況とお礼

芹沢昇雄

今年の「平和のための博物館ネットワーク」の全国 交流会が 10 月 26, 27 日に、私たち「中帰連平和記念 館」の担当で埼玉県武蔵嵐山町の国立女性教育会館で 開かれ、46 名が参加し 14 団体からの報告がありまし た。二日目は永田浩三さんの記念講演があり、午後 は希望者参加の「フールドワーク」があり、丸木美術 館と私たちの中帰連平和記念館にご来館戴きました。

記念館は実質「資料館」で展示はありませんでしたが、皆様のご来館に合わせて少しだけ展示致しました。また、今まで A4 四つ折りの「リーフレット」しかありませんでしたが、B5 版全カラー26 頁の「ブックレット」を作成し、全国交流会ご参加に皆様に配布させて戴きました。

最近、記念館は関連資料を求めて学者などのご来館が目立ち、「記念館の資料を生かし使って欲しい」との、本来の私たちの目的に向かいつつあり有り難く思っております。

この 13 年間、会員の会費とご支援ご理解下さる皆様のカンパのみに支えられ運営出来たことに御礼と感謝申し上げます。A4,6 頁ほどの拙い会報ですが、唯一皆さまと繋がるものと思い、此れからも皆様に「中帰連、記念館」の情報をお伝えしたいと思います。 今後とも宜しくお願い申し上げます。

【NPO 中帰連平和記念館】)

TEL&FAX: 049-236-4711 (水・土・日)

E-mail: npo-kinenkan@nifty.com

HP: http://npo-chuukiren.jimdo.com/ (臨時休館あり「事前連絡」お願いします)



(中間報告) 「平和のための博物館における15年戦争 関係の最近の展示会について」

わだつみのこえ記念館館長 山辺 昌彦

第 18 回平和のための博物館・市民ネットワーク全 国交流会では、私の近況報告をした上で「平和のため の博物館における 15 年戦争関係の最近の展示会につ いて(中間報告)」を行いました。

私は、2019 年 6 月に、公益財団法人政治経済研究 所付属東京大空襲・戦災資料センターの役員をおり、 仕事を辞めました。すでに引継も終わり、公益財団法 人政治経済研究所では主任研究員のみを続けていま す。主任研究員として、「最近の平和博物館における戦 争展示について」のテーマで、8 月からの 1 年間の期 間で個人研究費割り当てを受けて、研究を続けていま す。今回の全国交流会の報告は、その中間報告になり ます。 認定特定非営利活動法人わだつみのこえ記念館では記念館の建設準備から学芸員として関わってきましたが、2019年6月から、学芸員の仕事を続けつつ、館長の渡辺総子さんが法人の理事長になったあと、私が記念館の館長になりました。

わだつみのこえ記念館は戦没学徒の遺稿パネルを作成し、北上平和記念展示館の「3 つの著名な兵士の手記と軍事郵便展」に貸し出しました。北上平和記念展示館は岩手県藤根村(現北上市)にあった藤根小学校の高橋峯次郎先生宛に卒業生から送られた「7000 通の軍事郵便」と、岩手県農村文化懇談会が『戦没農民兵士の手紙』を編集するために収集した戦没兵士の軍事郵便とを所蔵しています。その一部をお借りして、わだつみのこえ記念館では、館蔵の戦没学徒の軍事郵便と農民兵士の軍事郵便を展示する企画展の開催を2020年春に予定しています。

(中間報告)「平和のための博物館における 15 年戦争関係の最近の展示会について」 は、すでに戦後 70 年の 2015 年に平和のための博物館が開催した 15 年戦争関係の展示会については、「平和のための博物館と戦後 70 年」(『政経研究』107 号、2016 年 12 月刊)において紹介しました。今回は、それ以降の 2016 年~2019 年に平和のための博物館が開催した 15 年戦争関係の展示会について調査することを課題としており、中間報告では、現在の日本にある 15 年戦争を扱った「平和のための博物館リスト」と、「平和のための博物館で 2016~2019 年に開催された 15 年戦争関係の展示会リスト」を紹介しました。報告後、参加者から私が見落としていた平和のための博物館を教えていただき、助かりました。

1年間の研究期間の終了後、公益財団法人政治経済研究所に展示会のリストだけはなく、展示会の内容も紹介する最終報告を作成し、提出する予定ですが、報告書を刊行するメドはまだたっていません。

すみだ郷土文化資料館 (墨田区向島 2-3-5)の夏以降の活動

学芸員 石橋星志(Ishibashi Seishi)

8月10日(土)午後1時~3時、空襲のギャラリートークを実施した。当館のギャラリートークは、空襲体験画の作者または空襲体験者に、2階の空襲体験画展

示の空間で体験を話してもらう企画である。今回は、 空襲体験を話すだけでなく、体験記を書いたり、体験 画を描いてきた空襲体験者のお2人をお招きし、それ ぞれの空襲体験や体験を書き/描き残す思いをテー マにした。お話は、現在の両国高校で空襲を体験し、 先日体験記が刊行された正木安喜子 (Masaki Akiko) さんと、東陽町で空襲を体験し、『東京大空襲・戦災誌』 に体験記が掲載され、当館に体験画を寄せていただい た本橋桂子 (Motohashi Keiko) さんにお話いただい た。本橋さんは戦災誌の原稿は聞き取りだったこと、 きっかけは子どもの担任との縁によるものだったこ となどと、避難を先導してくれた隣の 10 代のお兄さ ん、お姉さんたちへの感謝と、空襲後行方が分からな い母について話した。正木さんは、神田の駿河台下を 強制疎開で離れ、現在の両国高校前の親戚宅に移って すぐ、学童集団疎開に参加し、1945年3月に戻り、す ぐに空襲に遭ったこと。3月10日に奇跡的に家族全 員が無事で、その後阿佐ヶ谷の親戚宅で5月25日の 空襲にも遭い、福島へ疎開したこと。体験記は初めて 書いたことなどを話された。ギャラリートークは来年 3月にも実施する。なお8月から来年3月ごろまで、 空襲体験画の展示を行っている。

アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争 と平和資料館」(wam)

名誉館長 池田恵理子

wam ではこの 3 月から、第 16 回特別展『朝鮮人「慰安婦」の声をきく一日本の植民地支配責任を果たすために』を開催中です(2020年8月まで)。朝鮮人の「慰安婦」被害者 183 人の証言パネルを貼りめぐらした第1展示室。そして、日本が植民地支配した時代に朝鮮に移植した公娼制度と日本軍「慰安婦」制度の歩み、解放後の南北分断、開発・軍事独裁と女性たちの闘いを伝える第2、第3展示室…。ここに来れば、ますます悪化する一方の日韓関係の歴史的背景とその経緯を知ることができます。それに、映画『主戦場』のヒットも加わって、この夏の wam はいつになく国内外の来館者でにぎわいました。

また私たちは、被害女性や元兵士の証言、公文書や 部隊誌などの情報をもとにアジア各地の慰安所を網 羅した慰安所マップをアップデイトし、ウェブ公開する事業を進めています。この膨大な作業は、歴史研究者たちのアドバイスをいただきながら、wamの運営委員と強力なボランティアスタッフが総がかりで取り組んできました。12月7日には、その成果を報告する予定です。

ところが慰安所マップの資料収集に追われていた 8 月、「あいちトリエンナーレ 2019」の「表現の不自由展・その後」の中止をめぐる大騒動が勃発しました。これは、「慰安婦」問題や天皇制をタブー化してきた日本の閉塞状況と歴史修正主義の横行、自国の戦争加害と国家責任を認めようとしてこなかった日本政府の対応…などを浮き彫りにした事件なだけに、wamでも見過ごすことはできません。抗議声明を出し、集会や署名活動に参加したりメディアの取材を受けるなど、にわかに慌ただしくなりました。「表現の不自由展・その後」は「あいちトリエンナーレ」の最後の 1 週間だけ再開して幕を閉じましたが、ここで露わになった問題が消え去ったわけではありません。私たちはこれからも問い続けていかなければ…と思っています



「表現の不自由展・その後」に展示された 「平和の少女像」(撮影:岡本有佳)

国際平和ミュージアム
2019 年度秋季特別展「上野誠版画展 ー 『原爆の長崎』への道程-」関連企画 トークイベント I 「日本の加害責任を版画にした上野誠」

専門委員 山根和代

2019 年 11 月 9 日 (土)、2019 年度秋季特別展「上野誠版画展 - 『原爆の長崎』への道程-」関連企画

トークイベントI「日本の加害責任を版画にした上野誠」を開催し、13名の方にご参加いただきました。

長野県長野市のひとミュージアム上野誠版画館から館長の田島隆さんをお迎えし、上野作品との出会いから版画館の設立経緯や版画館で行っている多様な活動についてご紹介いただき、また上野誠の人柄や作品の特徴なども田島さんの視点でお話いただきました。

特に、1937(昭和12)年に中国人留学生・劉峴(りゅうけん)に渡したという上野が描いた日本軍による中国人虐殺の版画(現在、行方不明)は、当時日本の加害を描いた作品としては貴重なものであったことや、上野の作風が1961(昭和36)年の長崎訪問を機に写実的な表現から心の内を抽象的に表現するようになったのではないかというお話が印象的でした。

トークイベントに参加いただいた方々からは、「多くの人に見てもらいたい作家だと思いました(20代学生)」、「とても充実したお話でした(60代教員)」、「ひとミュージアムへ是非行って見たいと思いました(80代)」など感想をいただきました。

ひとミュージアム上野誠版画館は、上野誠の作品を 展示するだけではなく、映画上映会や音楽会、読書会、 講演会など様々な催しを実施しています。地域住民の 文化活動の拠点になることを目指し日々奮闘してい ますので、ぜひ訪れてみていただければ幸いです。

(ホームページより)



ピースおおさか特別展「ポーランド・グダンス ク市 第二次世界大戦博物館展 Poland First to Fight 第二次世界大戦勃発の地・ポーランドの戦い」

ピースおおさか 専門職員 駒井詩子

80年前の1939年9月1日、ドイツ軍がポーランドに侵攻したことにより第二次世界大戦が勃発しました。9月17日には東部からソ連軍が攻め入り、ポーランドは戦場と化しました。ポーランド・グダンスク市にある第二次世界大戦博物館は、大戦勃発80年を記して、世界数十か所で企画展を実施し、日本での会場がピースおおさかとなっています。この企画展は、ピースおおさかおよび第二次世界大戦博物館、ポーランド広報文化センター、駐日ポーランド共和国大使館との共催事業となっています。

第二次世界大戦博物館は、バルト海に面する湾岸都市グダンスクに 2017 年 3 月にオープンしました。グダンスクは第二次世界大戦勃発の地でもあります。常設展示は、約 5,000 ㎡の広さがあり、これは世界の歴史博物館の中で最大規模の展示となっています。展示内容としては、「戦争への道」・「戦争の恐怖」・「戦争の長い影」と題する3つのブロックから構成されており、ヨーロッパと世界を背景にしたポーランドの戦争体験を展示しています。博物館にはポーランドはもちろん、ソ連やナチス・ドイツについての展示をはじめ、戦時下のポーランドの街を再現したエリアなどもあり、ホロコーストや原爆についての展示があります。

本特別展「Poland First to Fight」は、14枚のパネルで構成されています。ドイツとソ連の二つの大国に挟まれたポーランドを取り巻く情勢から始まり、大戦勃発前の8月23日に調印されポーランドの分割が組み込まれた独ソ不可侵条約、戦闘が始まった9月戦役、ドイツ支配下そしてソ連支配下におけるポーランド、ポーランド市民の恐怖、戦線におけるポーランド軍、地下活動、そしてワルシャワ蜂起、ホロコーストなどの内容が説明されています。各パネルには当時功績などを残した人物が紹介されています。展示内容の全体としては、戦時中いかにポーランドが苦難の道を辿ったかを強調している印象が見受けられますが、私たち日本人にとっては馴染みが薄いこともあり、地球の裏側で起きていた戦争の悲惨さを知るうえでは意義深い内容であると思われます。

特別展に関連して、9月15日には特別講演会「第二次世界大戦とポーランド」を開催しました。講師としてポーランドを中心とした東欧地域研究における第一人者であり、北海道大学および早稲田大学の名誉教授である伊東孝之氏を招き、日本とポーランドの地理的な違いに触れながら、戦火に見舞われた歴史のなか

でポーランドの人々が生き抜いた6年間を中心に講演いただきました。

また、来館者アンケートでは「ポーランドで起きていたことを全く知らなかった」、「この展示を見るために来館した」、「ポーランドにおける戦争の恐怖を知ることができて勉強になった」などの感想もあり、展示を見た来館者から比較的高い評価を受けています。昨年度に開催した特別展「カティンの森事件―22,000人のポーランド人将校の行方―」に引き続き、世界で起きた先の大戦に関する事象に関心を持つ人々が多いということが分かりました。今後も、ピースおおさかは戦争の記憶を伝え、平和の発信基地になるという使命のもと、日本そして世界の戦争に関する様々な企画を行い、その役割を果たしていきたいと考えています。

「槇村浩生誕の地」碑が完成

平和資料館・草の家 副館長: 岡村啓佐

模村 浩(まきむら こう)、本名:吉田豊道(よしだ ほうどう)は、当時のプロレタリア文学では例のない国際連帯の視点がつらぬかれた日本を代表するプロレタリア詩人として高く評価されてきました。平和資料館。草の家では訪れた方々に「北の小林多喜二、南の槇村浩」と紹介しています。

槇村浩は、1931 (昭和6) 年10月、日本プロレタリア作家同盟高知支部を結成。翌1932年2月に、反戦叙事詩『生ける銃架』を発表後、槇村が書いた「兵士よ敵をまちがえるな」の反戦ビラが、同志たちの手によって歩兵第44連隊(現高知大)兵舎内に侵入し配布するなど果敢な反戦運動に参加。3月には、独立を目指す朝鮮人民との連帯をうたった長編反戦詩『間島パルチザンの歌』を発表。しかし、4月に治安維持法違反で検挙され、非転向だったため3年の実刑判決を受け1935年6月出獄します。

代表作である「間島パルチザンの歌」の詩碑は、高知市城西公園に建立。墓碑は高知市平和町にあります。 しかし生誕地が不確かなまま今日に至っていたことから没後80年の記念行事のひとつとして、昨年から生誕地の調査を慎重に進めてきたところ確定し、多くの方々の募金によって「槇村浩生誕の地」碑が完成し、 草の家の誕生日である11月11日に除幕式を行いました。



1936 年 12 月に「人民戦線事件」で再び検挙され、 特高警察による拷問と投獄がもとで身体を壊し、1938 (昭和 13) 年 9 月 3 日に病死しました。(享年 26 歳)

「槇村浩生誕の地」碑は、高知駅から電車通りを南へ徒歩3~4分のところで、江ノロ川にかかる高知橋の南詰にあります。高知に訪れた際にはぜひお立ち寄りください。





岡まさはる記念長崎平和資料館

事務局長 崎山昇

○2019年7月6日、「浦上刑務支所・中国人原爆犠牲者追悼碑維持管理委員会」と「長崎の中国人強制連行裁判を支援する会」の主催で、「内田雅敏弁護士講演会」が開かれ、「北東アジアの和解により未完の日本国憲法を補完する?花岡、西松、三菱マテリアル、和解の経験に学ぶ」と題し講演されました。翌7月7日、平和公園の「追悼碑」前で追悼集会が行われました。○7月21日、資料館主催で「第4回岡正治さんを語る会」を開催しました。

○8月9日、「長崎在日朝鮮人の人権を守る会」主催で 「長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼早朝集会」が開催されま した。

○8月12日から16日、①徴用工問題や韓国人被爆者問題など日本の植民地支配における韓国の被害の状況について学ぶ、②韓国の市民と交流する、③現在韓国が抱えている問題について知る、ことを目的に資料館主催の「韓国に学ぶ旅」で、大学生3人を含む12人が訪韓しました。

○8月17日から19日、資料館が協力団体となって、初めて長崎を舞台に「Which community, whose community-歴史・記憶・帰属をめぐる CEDAR ワークショップ」というプログラムが行われました。

○8月24日、資料館主催で入館者10万人到達記念ービデオ上映会「長崎朝鮮人被爆者実態調査」を行いました。

○10月13日、資料館主催で南京利済巷慰安所旧址陳 列館侯曙光館長講演会を行いました。

○11月16日から5月まで、資料館では「もう一度学 ぼう!日本の現代史講座第1期」連続公開市民講座を 7回にわたって開講します。

ひめゆり平和祈念資料館

学芸課 前泊克美

2019年6月23日、おかげさまで、ひめゆり平和祈

念資料館は開館30周年を迎えることができました。

6月には、30周年事業の一環で「ひめゆり映像ドキュメンタリー上映会」を開催しました。ひめゆり資料館に関するドキュメンタリー映像 2 作品(1989年NHK/2017年RBC)の制作ディレクターやプロデューサーを招き、映像上映とトークを行いました。資料館の活動や継承の取り組みを映像で振り返ることで、設立時の思い出が話題に上がったり、ひめゆり資料館の今後やこれからの継承についても考える時間となりました。

また、付属のひめゆり平和研究所では、2021年にハワイで沖縄戦とひめゆり学徒隊の体験を伝える展示会の開催と次世代向けワークショップの実施を計画しています。その実施に向け、9月下旬、仲程理事長、普天間館長、研究所所員の狩俣がハワイ視察を行いました。ハワイでは、関係者や関係団体とのネットワークづくり、沖縄フェスティバルでの資料館紹介パネルの掲示、ハワイでのひめゆり関係者への調査、ハワイ大学図書館でのミニ展示、普天間館長による平和講話の実施など、1回目の視察と思えない程の大きな収穫がありました。

2020年2月29日には、一般の方対象(公募)で戦跡フィールドワークを行います。

さらに 7月 22 日、30 周年事業の目玉とも言えるリニューアルオープンに向け、ミーティングを重ねながら準備を進めています。どのような表現が「戦争からさらに遠くなった世代」に伝わるのか、難しい課題ではありますが、どうにか作り上げたいとみんな頑張っています。戦後 75 年の節目のひめゆり資料館展示リニューアル、どうぞご期待下さい。



映画上映後のトーク

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102 HP http://www.himeyuri.or.jp FB

「表現の不自由展」に対する行政の介入と 市民の脅迫的言辞に関する声明

第 18 回「平和のための博物館市民ネットワーク」 全国交流会参加者一同

2019年8月3日、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」は、テロ予告や脅迫ともとれる「電凸」(電話による抗議)と、展示の中止を求めた河村たかし名古屋市長の政治的介入の中で、主催責任者である大村秀章愛知県知事の「安全な運営が危ぶまれる」との判断により僅か3日間で中止されました。判断の背景には、2019年7月18日の京都アニメーションに対する放火テロもあったと伝えられます。そして、9月26日には、菅義偉官房長官が補助金の交付決定の見直しについて言及し、文化庁が補助金を交付しない方針を決めました。

日本国憲法第21条は、「集会、結社及び言論、出 版その他一切の表現の自由は、これを保障する」と 規定し、「検閲はこれをしてはならない」と定めて います。私たちは、表現の自由は暴力性や脅迫性や 差別性など他者の基本的人権を脅かすことのない 範囲で、最大限に保障されるべきものであると確信 します。大村知事は、「公権力の行使者が内容の良 し悪しを判断するのは、憲法 21 条にいう検閲と取 られてもしかたがない」と述べ、芸術監督の津田大 介氏は、「検閲というよりは文化・芸術に対するテ ロ」と批判しました。こうした事態に対して、同展 示会実行委員会や出品作家はもとより、日本美術会、 日本ペンクラブ、「女性・戦争・人権」学会、日本ビ ジュアルジャーナリスト協会、日本漫画家協会、美 術評論家連盟、国際美術館会議、日本劇作家協会、 日本出版者協議会、日本 YWCA、日本消費者連盟、日 本文化政策学会、立命館大学国際平和ミュージアム、 日本軍「慰安婦」問題解決全国行動に結集する各地 の「慰安婦」支援活動団体など、多くの団体が相次 いで展示会の中止に関する声明や見解を発表しま



した。

私たち日本の平和博物館関係者は、これまでにも、考えを異にする人々によって展示場を奇襲攻撃されたり、爆破予告の脅迫を受けたりする直接的な暴力にさらされたのをはじめ、公権力者の歴史観によって展示内容の抜本的変更を迫られるなど、様々な苦境に立たされた経験をもっています。しかし、私たちは、いかなる場合にも「表現の自由」を守るために可能なあらゆる努力を尽くしてきました。

今回の「あいちトリエンナーレ 2019」をめぐる顛末は、憲法的価値としての「表現の自由」を守るためには、公権力の介入を厳しく排するとともに、自由を享受する立場にある市民が自ら自由の圧殺に加担することのないよう、「節度ある主権者」として振舞うことが不可欠であることを教えています。

第18回「平和のための博物館市民ネットワーク」 全国交流会に参加した私たちは、「表現の自由」に 対する公権力の介入といかなる手段によるにせよ 反人権的・暴力的な攻撃を批判し、補助金交付中止 の決定に抗議するとともに、その速やかな撤回を要 求します。

2019年10月27日

国際博物館会議(ICOM)京都 2019 見聞報告 博物館の「脱植民地化」は世界の課題!

渡辺美奈(wam 館長)

ICOM って何?

2019 年 9 月 1-7 日、京都で第 25 回 ICOM(国際博物館会議) 大会が開催されました。ICOM は 1946 年に創設され、世界 141 ヵ国の博物館関係者が参加している国際団体。大会は 3 年ごとの開催で、2004年のソウル、2010年の上海に続いて、アジアでは 3 回目です。小さな民衆の博物館であるwam とつながりはないのですが、wam が参加して

いる女性博物館国際ネットワーク(IAWM)は、女性ミュージアムの存在意義を ICOM にも理解させたいと努力しています。今回、トルコの女性博物館関係者から、「京都の ICOM で植民地主義が議論される、wam はぜひ参加して意見を言うべきだ」とメールが届いたのでした。

脱植民地化はメインテーマのひとつ

プログラムを見てみると、「脱植民地化と返還」、 つまり旧宗主国が植民地から持ち出した文化財の 返還に関してメインホールでセッションが予定され、さらには「大日本帝国の旧植民地からの声」と いうテーマでも討論があることがわかりました。ま さに日本で開催するにはピッタリの話題ですが、発 言者リストには日本でこの課題に取り組んできた 人の名前も、韓国系の名前もありません。これらは いずれも 9 月 2 日に開催されるとわかり、参加費 は 1 日 1 万円と高額ですが様子を見てくることに しました。

「脱植民地化と返還」のセッションは、ヨーロッ パ、南米、インドなどから 10 人あまりのスピーカ 一が議論するもので、内容は大変興味深いものでし た。テーマは一言でいえば「博物館の脱植民地化」。 英国の大英博物館は「盗品博物館」と揶揄されてき ましたが、カナダ、豪などからインドへの美術品等 の返還は進んでいるそうです。返還を受けた側でも、 ただ単に受け取るのではなく、これまでの経緯を学 んで自分たちのモノとして再獲得していく Indigenization(固有化)の必要性を語っていまし た。多様な先住民文化のミュージアムがあるブラジ ルからも、他者による翻訳ではなく、所有者である 先住民が解説する取り組みなど脱植民地化の実践 例を紹介していましたし、ドイツからのスピーカー が、文化財の略奪は犯罪だったと認めるべきと語っ たのも印象的でした。会場からの質問時間には「文 化財の問題だけじゃない、植民地化が終わったとで も思っているのか」、「アフリカの遺産の 90%が国 外にあって、アクセスさえできない現状をどう考え るのか」と、大きなホールに本気度の高い質問があ

ふれました。

「博物館は深淵なものをどのように伝えるか:大 日本帝国の旧植民地からの声」は、ICMEMO (公共 に対する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際 委員会)という、ICOM でもナチスの犯罪などを扱 う博物館が所属する委員会等が主催しました。中国、 台湾、日本からのスピーカーが発表していましたが、 プログラムにあったユネスコ世界遺産センター関 係者による「明治産業遺産」の発表はキャンセルさ れていました。植民地支配責任をめぐる議論が素通 りした感じがあったので、質疑の時に「日本にとっ て現在進行形のこのテーマで、なぜ韓国からのスピ ーカーがいないのか」と主催者に質問してみました。 すると、司会が即座に「参加申請がなかったから」 と答え、もう一人の主催者は「紹介してくれたらよ かったのに」と言いました。本来、テーマに合わせ て発表者を探すのは主催者の役割であり、その少々 慌てた対応に不可解なものを感じました。会議の後 には、疑問を持っていた新聞記者や、韓国からの学 生が声をかけてきて、しばしの議論となりました。

博物館の定義改定は延期

博物館の定義改定は延期博物館とは何なのか一。 ICOM は設立された 1946 年にその定義を発表していますが、社会の変化に合わせてこれまで 6 回改正されてきました。人々が分断されている昨今の世界で、21 世紀の博物館が社会に対して担う役割とは何なのか。「過去と未来についての批判的な対話」や「様々な声に耳を傾ける空間」であること、人間の尊厳や世界の平等への寄与を目的とするなど、踏み込んだ改正案が提案されていましたが、今大会での採択は延期。ICOM の定義変更は日本の博物館法にも影響を与えるので、今後もウォッチしていきます。

『wam だより Vol.43』(2019.11) より転載



スアイ・アクソイ ICOM 会長(トルコ出身、女性)は 博物館運営における市民社会の役割や相互理解の大事 さを指摘した。日本側の挨拶は秋篠宮や京都市長を含 め、全員男性で、「男性活躍」が際立っていた。

●「ステージを超えて」"Transcending the Stage" by Pegge Patten(USA)



新刊本



●平和資料館草の家 30 周年記念誌 発行所:平和資料館・草の家

GRH@ma1.seikyhou.ne.jp

価格:1000円



投稿大歓迎

◆字数:500字を目安に◆願わくは写真を I ~ 2枚◆期限:随時受け付けます

〈原稿送り先〉 編集委員へ

musejapankyoto@gmail.com